

## 保育計画成果報告書

法人名	株式会社みんなの保育園
施設名	志村一丁目小規模保育園
報告者（役職）	渡辺 美千代（園長）
住所・連絡先	〒136-0072 東京都板橋区志村1-8-6
	☎ 03-6454-5008
	E-mail shimura@minna-no-hoikuen.jp

### ○タイトル（保育計画）

雨の日も体をたくさん動かし 楽しい遊びをしたい

### ○主な助成備品

ウレタン製プレイブロック ソフト積み木

## 1. 保育計画策定の目的

私達、志村一丁目小規模保育園では小規模保育園ならではの特性を活かし、子ども達一人ひとりに寄り添ったアットホームで温かな保育をしています。

反面、「園内スペースが狭く活動空間や収納スペースが限られている」「ホールや園庭がない」「園の前は大きな国道で常に車や自転車に注意して外を歩かなくてはならない」といった問題点や課題点が多くあります。

毎日戸外活動をするよう心がけていますが、天気の悪い日が続くとどうしても室内活動がマンネリ化し、活動量が減ってしまいます。天候に左右されることなく、毎日体を自在に動かし、のびのびと遊ぶことのできる環境作りを目的とし、プレイブロック、ソフト積み木の購入を希望しました。

## 2. 具体的な実施内容

＜ウレタン製プレイブロック＞

各年齢・月齢に合わせて環境作成の方法を変えました。

- ・ 0歳児…つかまり立ちがしやすいよう、同じ形（主に正方形）のブロックをまっすぐ繋げました。
- ・ 1歳児…障害物競争のように形の違うブロックを繋げ、ゴールを目指しました。  
子どもたちは不安定な足場に恐々としながらもゴールし、コツをつかむと何度も何度も繰り返し楽しんでいました。（写真①②）

①



②



- ・ 2歳児…少し幅のある場所をジャンプして渡る遊びをしました。最初は保育士の補助付きで次第に一人で飛べるようになってきました。（写真③）  
先生たちが持ち運ぶので、自分でもやってみたい！とお片付けにも積極的に挑戦してくれるようになりました。（写真④）

③



④



<ソフト積み木>

ソフト積み木は年齢・月齢関係なく園全体で遊ぶことができ、縦割り保育には最適な玩具でした。

○アンパンマンのベッドを作りました。

ベッドの下はトンネルになっています。(右写真)



○橋のように繋げて線路を作りました。

ブロックの中はまるで秘密基地。(右写真)



○みんなでお城を作りました。

「私のお部屋はここ!」「僕はここ歩く!」と

ごっこあそびの想像力は止まりません。(右写真)



### 3. その成果と評価

#### <0歳児>

お座りの練習から、ハイハイ、つかまり立ちや伝い歩きなど、子どもの発達においてとても重要な段階をこのブロックと共に過ごすことができました。

ハイハイやずりばいをしている時は床に口をつけ、なめてしまうことがありますが、プレイブロックは毎日消毒しても傷まない素材なので、衛生面の安全も守ることができました。

また、ウレタンブロックの上ならば転んでも痛くなく、怪我もしにくいので安心して自由につかまり立ちや伝い歩きの練習をさせることができました。0歳児には公園の遊具は大きく、十分に体を動かせなかったのが悩みの種でしたが、今では0歳児は早めに帰園し、室内でウレタンブロックを使って遊ぶという流れで体を動かす活動ができるようになりました。

#### <1歳>

靴での歩行に慣れていない歩き始めの子が多かった1歳児クラスにとって、素足で体を思いっきり動かせる環境はとても重宝しました。滑り台にしたり、階段の上り下りを練習したり、室内アスレチックのように組み立て活動をしていました。

ソフト積み木は一つひとつのサイズが1歳児でも持てる大きさなので、みんなが持ちたがり、積極的に遊びの準備や片づけをしてくれるようになりました。

また、ソフト積み木を仕切りとして使用し、コーナー保育を設けることができました。保育室を2種類の遊びで分けることができるようになったことで、子ども達も自然と“静”の遊び（絵本やお絵かき）と“動”の遊び（全身運動ブロック遊び）の切り替えが出来るようになりました。

#### <2歳>

今までは全身運動＝走り回ると考えがちだった室内活動も、平均台を作ってバランス歩きの練習をしたり、トンネルを作ってくぐってみたり、走りまわるだけではない全身運動をすることができるようになりました。

また、子ども達の身長よりも高く積み木を積み上げるにはどうしたらよいか？と頭を使って活動したり、思いのままの創作活動に繋がられたので、トミカを走らせて線路にしたり、三角ブロックに長いブロックを乗せてシーソーにしたり、時には門を作りお店屋さんになったり、囲いを作りお風呂が出来たり…大人には考えられないものを作りだしてくれました。

#### 4. 今後の課題と展望

これまでの成果をみますと、子ども達は積極的に体を動かし、頭を使い、全身で遊ぶことができるようになりました。今までよりも活動の幅も広がり、笑顔も増えたように思います。

一方で、子どもたちの自主性に任せるだけでなく、もっと展開性のある遊び・環境を提供することが我々保育士の課題だと考えております。

子ども達の自主性に任せて、のびのびと遊ばせることはもちろんですが、ただブロックを上り下りするだけではなく、そこに展開性を持たせた次のステップに進んだ遊びをしていきたいと考えています。具体的には、高い所からのジャンプの練習や、わざとアンバランスな積み木に立ちバランスを取る、など今までやったことのないようなことに挑戦していこうと思っています。

また、子ども達の「できない」を1つでも多く「できる」に変え、達成感や喜びといった心の部分の成長も促していくことが今後の目標です。

子ども達が思いっきり、かつ安全に体を動かせる環境作りを意識し、これからも楽しく笑顔あふれる保育環境づくりに取り組んでまいります。

以上